

《所沢税務署長賞》

税はよいものか、わるいものか

東町中学校 三年 可成 叶佳

税、そう聞いたとき、私が思い浮かべたのはマイナスのものばかりだった。増税するかもしれないという報道でざわつく世間。物を買うときに含まれている税金を考えて、気分が落ちること。私が税と聞いてマイナスのことしか思い浮かばないのはなぜだろう。それは、税が私にもたらしているよい影響を認知できていないからだ。私は、私達が払っている税の使い道として国債の返済を第一に思い浮かべた。しかし、税の使い道はそれだけではなく、健康や生活を守るための社会保障、道路や住宅などの整備費用、災害のときの復興費用などがあった。実際、私の通っている学校の備品は税で成り立っていることを知った。

それを知っても、私の中ではまだマイナスに思う部分がある。それはなぜだろうか。私は、実際に税金の使い道を決める政府に対しての信頼度が低いからではないかと考える。

日本よりも税金が高いフィンランドやデンマーク。しかし、国民の幸福度はとても高いと分かった。税金が高い分、サービスはとても充実している。そしてなにより、国民の政府に対する信頼度が高いことが幸福度が高い理由の大きな一つだろう。

それではなぜ、日本国民は信頼度が低いのだろうか。政治家達の悪い印象も影響していると思うが、その政治家達を選んでいるのは私達ではないか。

税に対する不満は若い世代の方が多い。しかし、選挙の投票率はとても低い。今よりももっと充実した税の使い方を求めるのなら、私達がそうしてくれる政治家を選ばなければならぬのだ。

普段、税のことについて周りと話すことはないだろう。そのせいか、私達は税を難しいものとして捉えてしまう。だから、選挙に行き、政治家を選んで投票するなんて、三年後とはいっても、行かない気がした。でも、選ばなくてもよいことを知った。誰の名前も書かなくても、私達が投票に行った事実を残すことが重要なのだ。私達が政治に、税に、関心があることを示す。それが、税がよりよい形で使われるようになるきっかけとつながるのだ。

減税されることは難しいだろう。減税されたとしても、今まで通りの制度のままかどうかは期待できない。だから、私達は今のままの税で幸福度を上げるしかないのだ。そうするにはまず、身の回りの税を認知し、税に対しての理解を深める。政治に関心を示し、よりよい制度にしてほしいという声を届けることが必要だ。

税、それは活用の仕方によっては、とてもよいものだ。私達の生活に安心を与えてくれる税。税に守られていると知ること。税をよいもの、わるいものにするのは、私達なのかもしれない。